

【姫路市立飾磨西中学校】の取組

1 テーマ

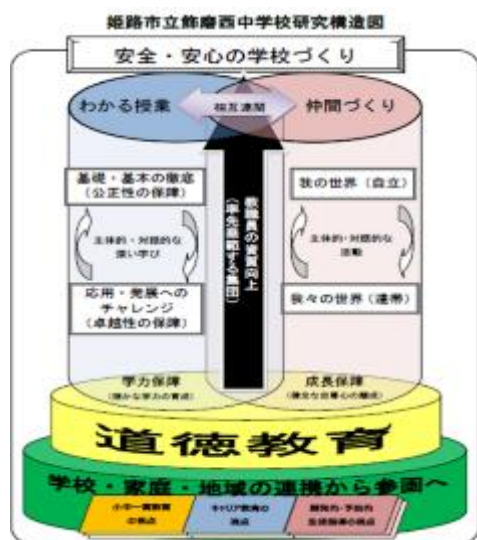
道徳教育を基盤とした安全安心の学校の創造
ー仲間づくり・わかる授業・キャリア教育を
中核としてー

2 テーマ設定の理由

本校は、「教師→生徒」という構図の中で、これまで学習指導や生徒指導が行われることが多かった。生徒一人一人が自らのよさを発揮し、いじめや体罰のない安全安心の学校を創造していきたいと考え、以下の二点に取り組んだ。

まず、従来行われてきた講義形式の授業から「教師⇄生徒」「生徒⇄生徒」の双方向の授業の実現が課題であると考え、教職員の授業力の向上として道徳科の授業、仲間づくり、わかる授業、キャリア教育の視点で研究を進める必要があると考えた。

続いて、生徒の学力向上に向けて、主体的・対話的で深い学びの学習を通して、「話す力」「聞く力」を意識した言語活動の充実が必要であると考えた。そのため、生徒同士が安全に学び、安心して自分の意見を出すことのできる環境づくりを目指し、本テーマを設定した。



姫路市立飾磨西中学校 グランドデザイン

3 研究経過

(1) 1年次(平成29年度)の取組

【仲間づくり (集団づくり)】

以前より、本校では自尊感情の低さに課題があった。自尊感情とは、自己に対する評価感情であり、自分自身を価値あるものとする感覚と定義されている。そこで自尊感情の向上に向けて自己有用感に着目して活動を計画した。自己有用感とは、自尊感情の一部で、他者の役に立った、喜んでもらえたなど、相手の存在なしには生まれてこないものである。この自己有用感を高めるために以下の3つ取組を計画した。

① 西美会(清掃ボランティア)

生徒会本部役員と美化部委員が中心となり、生徒自身が有志を募り、No 部活動 Day の放課後に学校や学校周辺の清掃を行う活動である。本校のスローガンでもある「西中一心 LOVE 西中 心のふるさと 我々が母校」の中の母校を「心のふるさと」として大切に思う気持ちを養うことを目的としている。

② 花さき山大作戦



生徒同士が互いのよさを見つけ、認めることで仲間のよさや学校のよさを認め合う風土を築くことを目的とした取組である。ひとつひとつの花にはほかの人のおかげで助かった内容やお礼の言葉が書かれており、学年の廊下に掲示して



した取組である。ひとつひとつの花にはほかの人のおかげで助かった内容やお礼の言葉が書かれており、学年の廊下に掲示して

いる。該当生徒だけでなく、多くの生徒の目に触れるようにし、深化を図っている。

③ 善行表彰(緑の下の力持ち)

毎学期末に、学級のために陰ながら支えてくれた生徒を、全校集会で表彰する取組を行っている。この活動は、生徒同士が普段は見過ごされてきた小さな善意に気づき、その行動が多くの人役に立っていることを集団として認識することを目的としている。

【道徳科の授業づくりと評価】

2019 年度より教科化となる道徳科の授業改善について、1 年次は道徳科の授業づくりや評価についての演習を立命館大学教職大学院荒木寿友教授にご指導いただいた。

① 授業づくりについて

道徳科の目標は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」とある。この文章から、以下の4 点を道徳科の成立要件とし、授業づくりを行う際のチェックポイントとして意識して授業づくりを行った。

- ・道徳的諸価値を扱っている
- ・自己を見つめる(自己内対話)
- ・多角的・多面的に物事を考える
(多様性の確保)
- ・自分の生き方について考える
(将来への展望)

② 道徳科の評価について

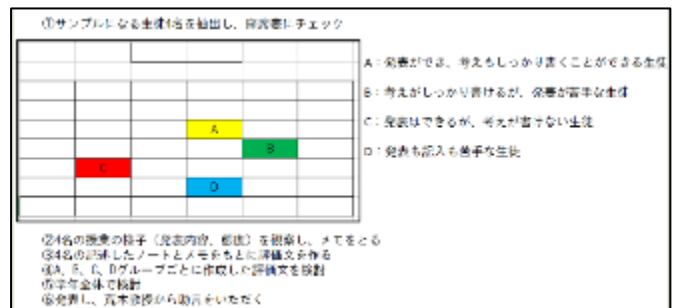
道徳科の評価は、「生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」とある。そこで、道徳科の目標から考えられた道徳科の授業の成立要件と照らし合わせ、評価

作成についての演習を行った。

(2) 2 年次(平成30 年度)の取組

【道徳科の授業づくりと評価】

1 年次に続き、授業づくりと評価についての研修と研究授業を行った。評価に関しては、実際に授業を複数の教諭で参観し、評価演習を以下のような形式で行った。



また、授業づくりに関しては、発問づくりに着目し授業改善に取り組んだ。発問の種類については以下の4つに分類し、授業展開と発問内容について研修を重ねた。

- 場面発問・・・教材解釈のための問い
- 中心発問・・・教材から導かれる中心的な問い
- テーマ発問・・・その時間に扱う道徳的価値についての問い「親切とは?」「正直とは?」
- 補助発問・・・生徒の発言を問い直すもの(揺さぶり発問、問い直し発問、繰り返し発問など)

【わかる授業の創造ー主体的・対話的で深い学びの実現に向けてー】

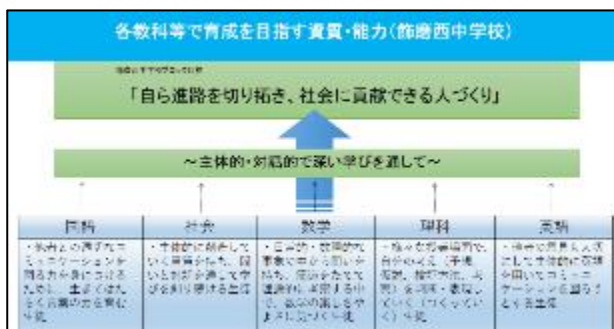
21 世紀の社会に求められる汎用的能力として、基礎力だけでなく、思考力・実践力が必要である。授業で置き換えると、「何を知っているか」だけではなく、「何ができるのか」「知っていること、できることをどう使うか」が必要になる。そこで、これまで以上に何を学ぶかに加えて、どのように学ぶかが大切になると考えられる。

飾磨西中ブロックでは、「自ら進路を切り拓

き、社会に貢献できる人づくり」という目標を設定し、この目標の実現に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現についての取組を行った。

① 教科における目指す子ども像を明確化

各教科において、授業を通してどのような力を付けさせたいのかを明確にし、学校全体として共有した。



② 言語活動の充実

言語活動の充実に向けて、京都女子大学坂井武司教授の研修に基づき、発達段階ごとに目指す「説明・問い方・聞き方」について方法を学んだ。

発達段階ごとに目指す「説明・問い方・聞き方」		
低学年	中学年	高学年以降
説明 具体的事象・経験との対応 ミラリング (反響する意味)	図・式・表・グラフとの関連 疑問点 関連性の指摘	図・式・表・グラフとの相互関連 共通点 相違点
聞き方 傾聴	批判的傾聴	建設的・創造的傾聴
ベア・グループ		
和議員(ワールドカフェ)		
ジグソー		
各教科の単元の特徴やその時間の授業に合わせて柔軟に対応する必要がある		

(3) 3年次(令和元年度)の取組

【道徳科のローテーション授業の実施】

3年次は「学年全体で、教科道徳科に関わることで、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を目的として道徳科のローテーション授業を行った。ローテーション授業の例は次図に示した通りである。

道徳科		2年生3学期 ローテーション授業の進め方					
		1組	2組	3組	4組	5組	6組
1月	23日	木④	木④	木④	木④	木④	木④
		親をくたさ	親をくたさ	親をくたさ	親をくたさ	親をくたさ	親をくたさ
	31日	金④	金④	金④	金④	金④	金④
		中尾	荒川	中尾	中山	梅宮	宿岡
		父の汗	父の汗	父の汗	父の汗	父の汗	父の汗
2月	6日	木④	木④	木④	木④	木④	木④
		梅宮	宿岡	中尾	荒川	中尾	中山
		父の汗	父の汗	父の汗	父の汗	父の汗	父の汗
	13日	木④	木④	木④	木④	木④	木④
		中尾	中山	梅宮	宿岡	中尾	荒川
		父の汗	父の汗	父の汗	父の汗	父の汗	父の汗

○学級担任のみの道徳の時には学年全体で教材研究を行う。

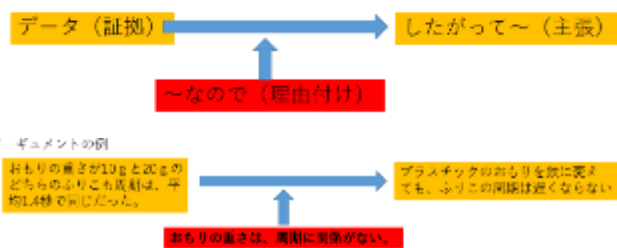
○2人で1つの教材研究を行う。

【主体的・対話的で深い学びの実現に向けて】

わかる授業の創造について、3年次は主体的な学びを支える「問いの重要性」、対話的な学びを支える「説明活動」、深い学びを支える

「見方・考え方」の3つの中から特に「説明活動」の充実に注目した。2年次は、発達段階ごとに目指す「説明・問い方・聞き方」について研究を行い、3年次はアーギュメントと呼ばれる形式を意識した説明活動の充実に取り組んだ。

*アーギュメント・・・主張、データ、論拠、限定詞、例外の条件や反駁といった、論証を構成するための一連の言葉の構成要素からなる形式



【仲間づくり(集団づくり)】

3年次は、西美会(清掃ボランティア)を本ブロックの津田・英賀保小学校6年生と協力して校区の公園の清掃を実施した。小学校とのつながりを大切に感じ、自らが育ってきた地域を肯定的に捉える心情を養うことを目的に計画した。



西美会の様子

4 3年間の研究を終えて

(1) 成果

○道徳教育(道徳科の授業づくり)

道徳科の授業づくりについての研修を重ねる中で、教材の設定・発問の仕方・発問内容・評価などポイントを明確にし、教材研究や事後反省会を実施することができた。3年次には、新たな取組として、ローテーション授業を実施することで、以下のようなメリットとデメリットが生じた。

(メリット)

- ・いろいろな先生の授業を受けることで、道徳科の授業を楽しみにしている生徒が増加した。
- ・毎回の授業で教諭同士で授業参観ができた。
- ・学級担任が自分のクラスの授業を第三者の目線で見ることができた。
- ・1つの教材を何度か指導することで、教材研究をさらに深めることができた。
- ・教職員全員の道徳授業のスキルアップにつながった。

(デメリット)

- ・授業前の学年全体での教材研究を毎回行うことが時間的に難しくなった。
- ・評価をする学級担任が授業をしていない教材がある。

実際に昨年度と今年度の姫路市児童生徒状況調査の結果を比較すると、「道徳の授業は楽しいですか」という項目で+8.9%となり、改善が成果として表れていた。

○仲間づくり(集団づくり)

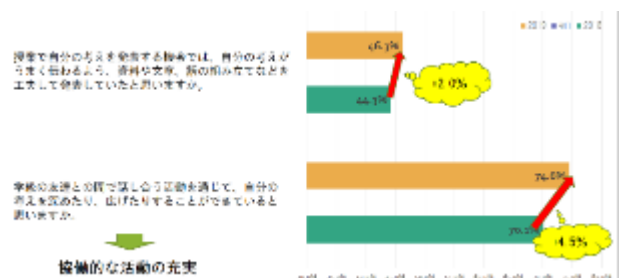
他者の役に立ちたいという感情が高まって

きたことがアンケートからも読みとることができた。花さき山大作戦や善行表彰(縁の下の力持ち)などの称揚活動によって、自分が他の人の役に立っている(役に立ちたい)という自己有用感の高まりに効果があったのではないかと考えられる。善行表彰(縁の下の力持ち)では、学級全体にアンケートをとることで、表彰された生徒だけでなく、ほかの生徒の善い行いについても学級担任が把握することができるというメリットもある。善い行いについて認め合うことで、本校の課題であった「教師→生徒」の関係性から「教師⇄生徒」「生徒⇄生徒」の双方向の関係性へと改善された。

○わかる授業

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、言語活動の充実を図るために研修を重ねた結果、生徒アンケートから改善が見られた。

また、授業者が協働的な活動のスキルを学ぶことで、その場に合った形式でより効果的な活動を選択していこうとする工夫が見られるようになった。さらに3年次には、明確な「めあて」の設定や「振り返り」活動の充実に着目し、研修を繰り返す中で、ポイントを絞って教員間で授業づくりについて検討をする体制が整った。



(2) 課題

○道徳教育の充実

この3年間の中で新たに取組んだローテーション授業を今後続けていくことができるのかメリットとデメリットを踏まえた上で検討していく必要がある。また、道徳の授業が楽しみであると答えた生徒が増加傾向にある

が、まだ姫路市の平均には届いておらず、継続的な教材研究と研究授業の実施が必要と考えられる。

○仲間づくり(集団づくり)

継続的な称揚活動の結果、他者の役に立っているという自己有用感については改善が見られたが、自分で自分のことを認める自己肯定感に課題が残っている。自己肯定感の向上を目指し、自らが育ってきた姫路市や校区について学ぶことを取り入れた活動を教科の授業や道徳の地域教材・総合的な学習の時間に計画し、改善を図りたい。

○わかる授業

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業づくりの段階で、明確な「めあて」の設定・言語活動の充実・「振り返り」活動の充実の3点について改善は見られ、生徒の学ぼうとする意欲につなげることはできた。しかし、「めあて」の設定では学習活動の見通しがもてる「めあて」が必要であり、「振り返り」活動に関しても、次の「めあて」につながる活動が必要である。そのためには授業展開の方法を、研究授業を重ねる中で検討していく必要があると考えられる。

5 参考文献

- ・「全国学力・学習状況調査 報告書」
国立教育政策研究所 2019 年
- ・「中学校指導要領 解説 特別の教科 道徳」
文部科学省
- ・荒木寿友「ゼロから学べる道徳科授業づくり」
明治図書出版 2017 年